

入選

緑豊かな古里を愛したあなたへ

椎野 登志子 福島県福島市 七十五歳

突然訪れた今生の別れから四年が経ちましたが、そちらは如何なものですか？

鮎が泳ぐ摺上川、大鳥城のあった館の山、ゆったりとまちを見下ろす愛宕山：緑豊かなこの里で生まれ育ったあなた。

定年後、あなたは大きな図板を肩から下げて、飯坂のまちを描き歩いていましたね。

「まちを歩いていつも思うことだが、どの道にも生活のにおいが溢れている。『道』があるところにまちが出来る。まちの人々のくらしが積み重なり、やがて歴史がつくられていくのだろう。『道』は歴史の礎。出発点だ。」

生前のあなたがよくいつていた『一所懸命』の話を思い出します。『所』は領地を表わし、命を懸けて守ることから『一所懸命』この地があなたの『所』なんです。

子供の頃、摺上川で川遊びをした等の話を思い出しながら十網橋を渡ると、摺上川に水鳥がたくさん泳いでいるのが見えます。

川辺の草むらには羽を休め、何かを語り合うような鳥達の姿。

鳥よ。どこまでも高く羽ばたく翼を持つならば、主人に伝えてほしい。

今年も数え切れないほど、あなたの好きな朝顔の花が咲きましたよ。天からも数えることが出来る様に、毎年たくさん咲かせ続けるから、楽しみにしていて下さいね。

緑豊かな古里を愛し、友と語り合い、生涯を終えたあなた。ありし日を回想しながら歩いております。

私の生きる『道』をしっかりと踏みしめながら…。